



2026年7月4日 礼拝メッセージ 菅原亘牧師
みことば： 第Ⅰ テモテへの手紙3章1節～16節。
メインタイトル： 交わりの回復
サブタイトル： 「神の教会の指導者の条件。パート3」

7月に入り今年も半分が過ぎ去りました。真夏の猛暑が待ち受けています。パリやドイツでも40℃越えの酷暑のニュースです。英国ではクーラー設備の住宅は殆ど無いのですが、この暑さで大変だそうです。皆様の健康が守られますように！
テモテへの手紙は使徒パウロが弟子の若きテモテに具体的に書き送った指導の手紙です。監督とは初代教会ではいくつかの地方教会を束ねて指導監督する立場の人を指します。使徒は教会の土台で使徒が監督とか長老とか執事などを指名して教会を健全に導きました。教会における指導者の条件は単に有能であるというだけではいけません。キリスト者として人格や生活態度の模範が求められます。ここでは使徒パウロはテモテに具体的な指導を行っています。

1・監督の職務の条件

3章1節～7節。

2・執事職の条件。

3章8節～10節、12節～13節。

3・女性の執事職の条件

3章11節。

4・近いうちにテモテに会いに行く

3章14節。

1章3節。(エペソに滞在していたテモテ)

5・神の家とは生ける神の教会であって、教会は真理の柱、土台です。

3章15節。

教会に関しての教えが多くあるのはエペソ人への手紙です。

エペソ人への手紙1章22節～23節。(教会はキリストの身体であり、)

エペソ人への手紙3章10節。(教会を通して、神の豊かな知恵が、)

6・敬虔の奥義。奥義＝ミステリオン(ギリシャ語)＝ミステリー(英語)

3章16節。

エペソ人への手紙3章3節～6節。(異邦人も共同の相続人となる)